

診療所  
待合室

孫との会話、  
「今、できること」

大山口診療所

久野 淑枝

良好な対人関係は大切です。今回は「孫が言うことをきかない」と嘆く祖父母の皆さんへエールを送ります。孫との世代格差ゆえに、コミュニケーションにずれが生じることが多いようです。このことに気付き改善することで、相互理解が深まり、自らの感じ方も改善されていくことを実感するというのが理想的です。

しかし、そうはいっても、孫が勉強しないと心配になるし、生活がだらしないと注意したくなるものです。ご存知でしょうか？例えば「早く勉強しなさい」という言葉は、中・高校生にとって、家族から言われると最も力チンとくるというデータがあります。

過干渉も良くないですが、子どもへの対応で一番良くないのは、無関心です。言葉は「ことだま」と言われ、それ自体に霊的な力があると言われた時代がありました。古人の言葉には実に深い意味と思想が込められています。声をかけ、コミュニケーションをとることは

良いことなのです。

昨年未、「トイレの神様」という歌が目されました。孫とおばあちゃんの心温まるエピソードを歌にこめたものです。孫はおばあちゃんが故人となつてから、自分が愛された記憶とともに、その意味を知っています。そして、このたびの東北震災では「自分はいかに今まで裕福であったかに気付いた」と被災した小学生が言っていました。

私たちの暮らしは、いつまでも健やかで実りある心豊かな日々を過ごすことが理想です。でも、現実の明日は何が起こるかわかりません。被災された方々に支援をするにあたって「今、できること」をテーマに、家族のぎずなや大切なものについて思い返し、自分何ができるのかを皆が考え行動しています。伝わるものがたくさんあると思います。

ですから、ずれていてもいいのです。遠慮せずに、孫を愛する自分の気持ち伝えましょう。喧嘩も思い出となるかもしれませぬ。ただ、コミュニケーションをとるにあたって大切なことは、誰かと比較をしないこと。孫が何かに興味をもっていているなら、関心を持つて応援すること（孫の個性を尊重する）。そして最後は、ここが実に難しいことが多いのですが『私の孫だから』と、信頼することです。

大山町人権交流センター TEL 0859-54-2286  
大山町茶畑1077-3 FAX 0859-54-2413

人権のつぼ 71

「一人ひとりが輝くために」 (その3)

——子どもにとっての男女共同参画——

今回は「男性にとつての男女共同参画」について紹介しました。今回は、国の「第3次男女共同参画基本計画」に新たな視点の一つとして加えられた「子どもにとつての男女共同参画」について考えてみたいと思います。

「第3次男女共同参画基本計画」では

施策の基本的方向の中で次のように述べています。

「次代を担う子どもたちが個性と能力を発揮できるように育つよう、子どもの頃から、男女共同参画の理解を促進し、将来を見通した自己形成ができるよう取り組みを進める」

家庭や学校などでは、子どもたちの個性や良さを認め、一人ひとりが自信をもって行動できるように働きかけを行つていくことが求められています。

子どもにとつて

子どもたちが一番何を見ているかという点、やはりお父さんやお母さん、家族の姿だと思えます。ですから、子どもに「男女共同参画」について自然な形で伝えていくためには、我々大人が男女共同参画についての理解を深めていくことが何より大切なのではないでしょうか。

2月3日付けの読売新聞に次の詩が載っていました。

お父さん

高崎翔一

昨日から  
お母さんの調子が悪くて  
お父さんがせんたくをしたり  
ごはん作りをしたりしている  
そんなお父さんが  
ちよつとかつこよく見えた  
(茨城県東海村・照沼小4年)

大山町第2次プラン

策定に向けて

大山町でも「大山町男女共同参画プラン」の見直しを平成24年度に計画しています。その基礎資料とするため、6月中に、町内にお住まいの20歳以上の方々のなかから、約1,600人を無作為に選びアンケートを行う予定です。ご協力よろしくお願ひします。